



・発行者・
京都障害者
スポーツ
振興会

題字 芝田 徳造

第23回

全国車いす駅伝競走大会に

参加して 鹿児島県選手団 前田 究

2012年2月19日午前11時30分、路肩に雪が残る中、第23回全国車いす駅伝競走大会の火ぶたが切られました。今大会は震災の影響もあってか、昨年より3チーム少ない25チームでしたが、8月に開催されるロンドンパラリンピックの候補選手も名を連ね、見どころの多い大会となりました。

エース区間の1区は最も走れていると評判の樋口選手(長野)が序盤から独走。後続に42秒の大差をつけて区間賞。2区でもリードを保った長野でしたが、3区で福岡の新鋭渡辺選手にトップを譲ります。4区と最終区の5区はともにパラリンピック内定の洞ノ上選手と副島選手を擁す福岡の独壇場となり、3分30秒以上の大差で4年ぶり二度目のウイニングテープを切りました。

熾烈だったのは準優勝争い。1区で7位と出遅れた地

元京都Aは、徐々に順位を上げ、ゴールの西京極競技場を前に2位を走る大分Aに追いつきます。勝負はトラックに持ち込まれ、京都Aのアンカー澤村選手が懸命のスパイトでチームを逆転準優勝へと導きました。

16回目の出場となった鹿児島チームは、過去に二度6位入賞がありますが、選手の減少でここ数年は下位に低迷しています。今大会は補欠なしの選手5名で大会に臨みました。

大会に向けては個人練習を積むと同時に、合同練習を実施。800メートルのレペティションなど高負荷のトレーニングで走れる身体を造りました。昨年区間10位と活躍した期待の新人選手が仕事で参加できずレベルダウンは否めませんでした。昨年の順位を上回ろうと徐々にチームはまとまりました。

鹿児島チームで最も仕上がりが良かった下堂選手をアツプダウンがある4区に配し、1区はこの区間を最も経験している私が走ることにしました。

号砲が鳴り、私は少しでも前の集団に食らいつこうとスピードを上げましたが、宝ヶ池通りで早々と単独走行となり白川通りに入るまでに後方の集団に吸収されてしまいました。上りが苦手なのでここからは無理をせず、集団の中盤で力を貯え、跨線橋と別当町の登りに備えました。10選手ほどで形成された13位集団は、ばらけることなく銀閣寺を過ぎ今出川通りへ。せめてこの集団のトップになろうと考え、中継所手前にある百万偏交差点の左折コーナーに全てを賭けました。ここは数年前の道路工事イン側で植え込みが出来てからかなり鋭角になり、相当な減速を余儀なくされる危険箇所です。集団の2番手でコーナーに差し掛かった私は、1番手の選手が減速するのを尻目にわざとスピードを落とさずコーナーに入り込みました。片輪が浮き、あわや転倒しそうになりました。後続が間髪を容れず、そのまますぐに後方に落ちてしまし

た。その後、鹿児島は2区と3区で順位を落としますが、工

1スの下堂選手が4区で順位を上げ、その順位を川路主将がキープし、昨年より記録は劣ったものの順位は一つ上がり20位という結果でした。

走り終えて中継所から西京極まで輸送されるバスの中、上位チームのフィニッシュやインタビュウの様子をラジオから流れていました。印象的だったのはアンカー勝負で大分を逆転し、ガッツポーズでゴールした京都Aの澤村選手でした。その後のインタビュウでガッツポーズについて、昨年12月に逝去された京都チームの片山美代子総監督に捧げるものであった事を明かしてくれました。京都市出身の私も学生時代は京都チームに所属し、片山先生には大変お世話になりました。私の結婚式にも来ていただきました。結果が良くても悪くても、ニコニコと選手をねぎらってくれる先生の笑顔が忘れられません。澤村選手の話聞きながら、今回私が百万偏のコーナーで転倒しなかったのは、先生のお加護があったからではないかと思えました。

第23回大会は、大震災後最初の大会とあって心の禪でつなぐチームの絆を例年以上に感じ、大切な恩師を追悼する思い出深い大会となりました。

行事予定	3月	13(火)	丹波障害者のスポーツのつどい	丹波自然運動公園	来月の つどいは 4 / 8 第2日曜日
		25(日)	240回障害者水泳のつどい	伏見港公園プール	
			城陽障害者スポーツのつどい	サン・アビリティーズ城陽	
京都障害者スポーツ振興会ホームページ TEL/FAX075-712-7010 http://web.kyoto-inet.or.jp/people/spo-shin/ (2012年1月15日に一部更新)					

スボ振ルネサンス (46)

【最終回】

「心でつなぐ活動を」

京都障害者スポーツ振興会

副会長 水谷 裕

先月19日、「第23回全国車いす駅伝競走大会」が北は宮城県(仙台市)から南は沖縄県までの23都府県から25チーム、214名の選手、役員の皆さんを迎えて行われました。

様々な自らのスポーツ環境などを取り巻く環境の壁を乗り越えて、厳冬の京都のまちを疾走し、私たちに感動を与えてくれる各地からのアスリートたちに、心から声援を送っていただき、ありがとうございました。

今回、京都のチームは、練習中、本番ともにアクシデントに合わないよう注意して、追う立場として全員が同じ目標と意識を持って絆を繋ぎ、私たちが関係者は言うまでもなく、応援していただいていた京都府・市民の皆さんの期待に応えてくれ、昨年より上位を目指し「京都Aチーム」は、1区7位から各区で追い上げ、競技場バックストレッチで前を走る「大分チーム」に追い抜きをかけ、

第3コーナーで完全にかわしてゴールするという見せ場を演出して準優勝。「京都Bチーム」は、目標としていた時間を切れませんでした。11位と、昨年より順位を上げる健闘を見せてくれました。

来年は、さらに、上位を目指して挑戦して欲しいと思います。それには、常時練習が可能なスポーツ環境などの確保を含めた様々な条件が整わなければならず、関係者が一丸となつて取り組むべき課題ではないかと考えます。

さて、話は変わりますが、京都障害者スポーツ振興会機関誌「つどい」の発行を担当している広報専門部の森津君から「4月号から、久しぶりの連載をよろしく」と、この連載の依頼を受けて「スボ振ルネサンス(再生)」というテーマで、つどい315号(2008年4月13日)から書き始め、本号で丁度4年。途中で、紙面の関係で2回抜けたので、計46回目になりました。

この間、より原点に立つて障害のある人々のスポーツ活動の支援を活動のコンセプトを基本に、現状を踏まえ「心でつなぐ活

動」をして欲しいとの想いから、振興会活動にかかる現状の課題や在り方を訴え、忘れ去られてきた本来の姿を理解してもらおうと、より良い活動を願う振興会活動に関わる人向けの内容を、振興会以外の人にも目につく「つどい」に、あえて書き、様々な観点から率直に訴えてきました。

この連載については、「自分は、一生懸命活動をしているのに、あんなことを書かれるのは、心外だ」とか、「水谷さんは、偉い人なんだから、問題があるなら直さばつたら良いではないか」とか、「あんな内輪のことを、機関紙で外部に出すべきことではないのでは」というご批判と反発をいただいたこともありましたが、反対に、あるスタツフに某スタツフが「あんなことを書いて...」といったことに対して、その人から「でも、ほんまのことやる!」と言われて黙ってしまつたこともあつたそうです。

この連載を引き受けたときから、私の表現について誰かから苦情が出てくるであろうことは、覚悟の上でした。みんなから疎まれるよ

うなことを、好き好んでしんどい思いをしてまで誰も書きたくないことはないというまでもありません。設立当初から振興会活動に関わつてきた一人として、どうしても現在の形式的になつていく振興会活動を、共に歩んできた仲間たちといっしょに、昔のような「人間味のある振興会活動」にしていきたいという思いが人一倍あると自負しており、書き続けてきました。

しかし、私も、最近とみに不自由になつてきた手で、肩や首の痛みをこらえ、毎月1600字も打つことが苦痛をとまなうようになつてきたので、今回で筆を置き、連載を終えることにしました。長い間、読んでいただきありがとうございます。

これからは、言わねばならない意見があれば、口頭で言わせてもらいます。



第23回 全国車いす駅伝大会 結果

日時：平成23年2月19日

福岡	45分50秒
京都A	49分28秒
大分A	49分31秒
長野	51分53秒
東京	51分54秒
兵庫	52分24秒
岡山	55分19秒
宮崎	57分25秒
横浜市	58分3秒
高知	58分8秒
京都B	59分24秒
中国ブロック	59分24秒
大分B	59分24秒
沖縄	1時間1分37秒
長崎	1時間1分50秒
茨城	1時間2分25秒
静岡	1時間2分34秒
愛知A	1時間2分47秒
三重	1時間3分31秒
仙台市	1時間5分10秒
鹿児島	1時間5分26秒
埼玉	1時間6分45秒
大阪	1時間8分14秒
福井	1時間9分14秒
愛知B	1時間15分28秒

皆様の応援ありがとうございました!